

“伝承する” ということ

伝統文化子ども教室を通して



原稿執筆者

まちかど特派員
杉山 祐子(水口町)

「今の30代から50代の人たちは、日本の伝統文化が途切れてしまっている世代です。」
『伝統文化子ども教室』第1回目、先生の挨拶での言葉です。まさにそれって私たちの世代！確かに私は茶道も華道も習ったことがない！作法も知らない！！子ども

の付き添いとして座っていた私は、この言葉にドキリとしました。

『伝統文化子ども教室』は伝統文化に触れる機会を子ども世代にどんどん与えていこうという文化庁の方針のもと、各地で開催されている教室です。地域によって和太鼓・布細工・日本舞踊・着付け等の様々な内容があり、水口では茶華道教室(富永紀美子社中)が昨年より実施されています。

「休まず続けること」というのが先生からの約束事でしたが、それどころか月1回の稽古日が子どもも私も楽しみでした。それは日常では味わえない緊張が感じられる場だったからかもしれません。

前半の茶道では、夏でも“凜”とした空気が漂っていました。汗をふきふき駆け込んできた人も急におしとやかになれる、そ

んな雰囲気がとても心地よかったです。私と同じく親子で参加されていた大堀さんは、唯一のお父さん。「仕事で外国の人と接することが多く、日本の文化を説明できるようになりたくて来ました。」と、子どもたちと並んで、にこやかにお茶をいただいておられました。「続けて、本格的に習ってみたい。」と言っておられたのが印象的です。私にとって茶道の一番の魅力は、「二つひとつの動作に意味があり、周りの人や物に対して感謝の心で接するのを学べること」でした。そういう心遣いが気持ちよくやりとりできる場だからこそ、また行きたいと思えたのではないのでしょうか。

“伝承する”ということは、動作や言葉を通じて、人の心をつなげていくことなのかもしれません。もしかしたら、伝統文化の他にも途切れかかった糸があるのかも。そう思うと、いろいろなことが浮かんできました。お盆・お正月を中心とする年中行事、とてもやさしい響きの方言、食文化、幼い頃の遊び……。この教室への参加は、途切れかけた糸をしつかり結び直し次の世代に伝えていく、という重要な役割に気づかせてもらえた貴重な経験でした。



子どもの自由な発想もOKです(後半、華道での様子)



お茶を点てるのも難しいね



ちょうだいします



お茶を味わう皆さん